福井大学
工学部　研究報告
第39巻　第2号
1991年9月

都市美運動の起源と意義
―アメリカ都市美運動に関する研究(1)―

長谷川　洋*　　玉置伸悟*

Study on Origins and Meanings of the City Beautiful Movement in America

Hiroshi HASEGAWA and Shingo TAMAKI

(Received Aug. 10, 1991)

The City Beautiful Movement, from about 1900 to 1910, has exerted the great influence on the design, planning, and management of many American cities. Its effects are still observed in, for example, wide tree-lined boulevards, ornamental parks, monumental neoclassic buildings, and street embellishments, etc. However, many critics hitherto have been under the misunderstanding that the City Beautiful Movement was derived from the 1893 Chicago Fair and had been subjected to the influence of the grand manner city planning only.

In this paper, the fresh interpretations are tried to put the City Beautiful Movement and to clarify the correct meanings and origins of the movement in place of the traditional notions. Three concepts are presented in this paper. These are municipal art movement, civic improvement and outdoor art movement. Each movement had been formed from the historical roots predating the 1893 Chicago Fair and had obtained the original results. The formative years of the City Beautiful were from 1897 to 1902. In this period, these three movements had spread out into many cities and in each city, their leaders found that they were bound together by the common interests in city beauty. In this way, these three movements were united to the City Beautiful Movement.

1．はじめに

本稿で紹介する都市美運動(City Beautiful Movement)は，19世紀末から今世紀初頭にかけてのアメリカ近代都市計画の出発点とも言える運動である。19世紀後半に初期資本主義が勃興したアメリカは，未曽有の都市化現象を経験し，深刻な都市問題を生み出していた。この状況に直面して，都市の中上流階級は彼らの都市を美と機能の統合体へと一変させるべく努力を開始した。『汝の合言葉は秩序，汝の合図は美とせよ』[1)]―このダニエル・バーナム(Daniel H.Burnham)の言葉で表現されるような理念が都市デザインにおいて具現化されることになる。公共建築物における古典主義様式，壮大なブルバードや装飾公園，騎馬像や噴水等である。都市の環境美化が市民の愛国心を駆り立て，労働生産と都市の経済を向上させると期待したのであった。

＊ 環境設計工学科

それゆえ，広義には，都市美運動は政治上の運動であったと言えよう。事実，都市美運動の実施のためには，政治構造の改変が必要とされた。また，都市美の改善は，公債発行や選挙キャンペーン等による有権者の承認を必要としたのである。一方，狭義には，都市美運動は当然計画活動であった。オルムステッド風の景観建築による総合計画が多くの都市で策定された。総合計画は，都市の無秩序な成長や都市問題をコントロールするための手段と考えられたのである。その一方で，都市美運動の断片的で「小さな側面」が推進されることになる。かくして，木陰のある建物の前庭や整然とした街路，記念碑的な公共建築物とそのグルーピング等が総体的な都市の美に貢献した。

本稿はこのような都市美運動に焦点を当て，都市美運動の起源とその意義に新たな視座を構築することを目的としている。というのは，従来，都市美運動は，1893年のシカゴ博覧会の荘厳さに端を発する記念碑的なバロック計画と考えられ[2]，近代都市計画史の文脈において専門家達はしばしばこの運動を軽視してきたからである。しかし，都市美運動はシカゴ博覧会に先立つ起源を持つ，複雑な文化的，美学的，政治的，そして環境上の運動であった。

なお，本稿の作成にあたって参考にした出典は各箇所に註として挙げているが，論考全体を通してその内容の多くは，文献－1「The City Beautiful Movement」(William H.Wilson, The Johns Hopkins Univ, 1989)及び文献－2「THE CITY BEAUTIFUL MOVEMENT, Forgotten Originsand Lost Meanings」(John A.Peterson, New York Univ, 1976)に負っている。引用は全般にわたっており，煩雑さを避けるため両文献からの引用箇所についてはいちいち註を挙げていない。本稿は巻末に掲載したその他の多くの文献を参考に，上記の目的意識に照らして独自に構成したものであるが，基本的には上記文献の抄訳，紹介としての側面が強く，こんごの研究展開のための資料を提出する試論的「報告」として位置づけられるものである。

2．1893年シカゴ博覧会と都市美運動

コロンブスの新大陸発見から400年後の翌年，すなわち1893年5月の開幕から10月の閉幕までの間に，約2,150万人の人々がミシガン湖畔のホワイト・シティー(White City)を訪れた。幾何学的な「名誉の中庭(Court of Honor)」の周囲に配された白亜の古典主義建築，紺碧の湖，緑なす芝生，壮大なモニュメント等がつくり出す光景は，この世のパラダイスと呼ぶにふさわしいものであった。その光景がどれほど壮麗であったかは，会場を訪れた「Harper's Magazine」誌の記者の次の文章からも明かであろう。『博覧会！　博覧会！　いまだかつてこのような意義深い名前はなかった。世界中のあらゆる光景の中で最もすばらしい博覧会よ。エメラルド色の空間に配された宮殿の都市は，光輝き，水面にその影をたなびかせている。水面は大理石の橋の下にまで波打ち広がり，岸には至芸な植樹がなされているのだ。』[3]

博覧会の光景は偉大であり，会場に足を踏み入れた人々の脳裏に焼きついた記憶は強かった。それ故，その後多くの都市で展開された都市改善の起源をシカゴ博覧会に求めたとしても不思議ではない。この活動は，シビック・センターの計画，公共建築のグルーピング，放射状のブルバード，記念碑やストリート・ファニチュアー等となって具現化された。1893年のシカゴ博覧会を都市美運動と合衆国における総合的都市計画に対するインスピレーションとするのは，まさにこの点においてである。しかし，これに対していくつかの異議を唱えることができる。まず第一に，博覧会が閉幕したのは1893年であるが，“都市美運動”という言葉が生まれたのは1899年である。またその運動

が具体化されたのはずっと後の1902年以降のことである。博覧会の遺産が具体的な計画として出現するのにほぼ10年を費やしたことを意味している。第二に，博覧会と都市美運動の関連は，博覧会に対するエリート階層の反応のみを描写したものにすぎないということである。事実，会場を訪れた大部分の大衆にとって，彼らの関心を引き付けたのは，ホワイト・シティーの壮麗さよりもむしろミッドウェイ(Midway)の派手な異国情緒であった。最後に，都市美運動の出現は，多くの全国あるいは地区組織の設立，及びアマチュア活動家たちの精力的な宣伝活動に依っていたが，彼らの活動のいくつかは博覧会に先立つルーツを有していたということである。そこで，博覧会と都市美運動の関係を明らかにするため，1893年にシカゴで開催されたコロンビア万国博覧会について考察することから始める。

コロンブスのアメリカ大陸発見400年祭を記念する万国博覧会を開催するという考えは，1882年に始まる。1889年夏に，ニューヨーク，ワシントン，セントルイス，そしてシカゴの4都市が博覧会の開催候補地に名乗りを上げ，活発な誘致合戦を展開した。1889年7月に，シカゴ市長のデウィット・クレジアー(DeWitt Cregier)は，シカゴで博覧会を開催するために250人の指導的市民で構成される委員会を任命した。この委員会は，1899年当時パリで開催されていた博覧会を調査するために，数名の代表者をパリに派遣した。また，博覧会開催の費用を賄う目的で，シカゴの45人の有力な実業家からなる重役会を結成し，共同出資会社を創設している。結局，1990年4月の合衆国議会において，博覧会の開催が正式に承認され(この時コロンビア万国博覧会と命名された)，それをシカゴで開催することが決定された。その成り上がりイメージにもかかわらず，シカゴが誘致に成功したのは，シカゴの後援者達の“I Will”精神であったと言えよう。

博覧会事業の実施に責任を負う2つのグループが存在した。一方はシカゴの株主で構成され，他方は合衆国議会によって任命された全州の代表者で構成される全国委員会であった。しかし，事業の計画と建設を監督するのは基本的には株主グループであった。シカゴでの博覧会開催を実現させるグループの顧問を勤めていたダニエル・バーナムは建設主任に任命された。

全国委員会とシカゴの株主グループの間で博覧会場をめぐる論争が生じた時，敷地の調査を行い，委員会に対する勧告案を作成するためにフレデリック・オルムステッド(Frederick Law Olmsted)と彼のパートナーのヘンリー・コッドマン(Henry Codman)が任命された。オルムステッドとコッドマンは，7つの候補地を調査した後，最も南のジャクソン・パークとして知られている，約1,500haの地域を博覧会場に選んだ。ここは，以前，オルムステッドがカルバート・ボー(Calvert Vaux)と共に，シカゴのサウス・パーク委員会の依頼を受けて全体計画を準備した地区であった。その後，紆余曲折はあったが，結局，ジャクソン・パークが博覧会場として正式に決定されることとなる。

1890年4月に，オルムステッドとコッドマンが博覧会建設の顧問景観建築家に，バーナムとルートが顧問建築家に任命され，4人の顧問達は直ちに協同で計画を進めた。1890年の秋に，敷地と建物の全体計画が準備され，同年12月に正式に採用された。全体計画が採用された後，バーナムは主要建築を設計する建築家を任命した。ニューヨークのリチャード・ハント(Richard Hunt)とニューヨークのマッキム，ミード，ホワイト建築事務所，同じくニューヨークのジョージ・ポスト(George P.Post)，ボストンのピーボディー，スターンズ建築事務所，そしてカンザスシティーのバン・ブラント(Van Brunt)とホーエであった。その後，シカゴの株主グループの要請で，シ

カゴの5つの建築事務所が参加した。すなわち，バーリング，ホワイトハウス建築事務所，ジェニー，ムンディー建築事務所，ヘンリー・コッブ建築事務所，ビーマン建築事務所，そして著名なアドラーとサリバンの建築事務所である。博覧会の全体計画が承認されたすぐ後，ルートが他界し，代わりにチャールズ・アトウッド(Charles Atwood)がニューヨークから招かれた。計画グループに加わったもう一人のメンバーは，彫刻家のセント・ゴーデンス(Auagustus Saint-Gaudens)であった。

計画家達の最も基本的な計画決定は，新古典主義様式を採用し，コーニスの高さを均一な18mにすることであった。また，中央のグルーピングされた全ての建築の外観を均一に白くすることであった。バーナムが言うように，『色彩指導者のフランシス・ミレット(Francis Millet)は，スプレーを吹きかけるという全く新しい方法を駆使して，漆喰仕上げの一群の建築を瞬く間に出現せしめたのである』[4]。かくして，博覧会のモデル都市はホワイト・シティーとして知られるようになった。

財政的危機にもかかわらず，博覧会は宣伝通り，1893年5月1日に開幕した。展示館は，中央の「名誉の中庭(Court of Honor)」の周囲に，調和をもって配された。「名誉の中庭」の「グレート・ベイスン(Great Basin)」の波立った水面は陽光を浴びて光輝いていた。運河とラグーンのシステムは，中央の「名誉の中庭」から周囲に広がり，各展示館を連結していた。記念碑的な規模のこれら展示館は240haの会場敷地の約1/3を占めた。ハントの「中央館」の他には，マッキム設計の「農業館」やポスト設計の「工業・芸術館」，ピーボディーとストリームス設計の「機械館」，ブラントとホーエ設計の「電気館」と「鉱物館」，サリバンとアドラー設計の「交通輸送館」，コッブ設計の「水産物館」，そしてジェニー設計の「園芸館」があった。「音楽・芸術館」と「婦人館」もあり，後者はボストンのソフィア・ハイデン(Sophia Hayden)によるものであった。加えて，13州の展示館と20の外国政府館があった。光輝く白いファサード，新古典主義様式，記念碑的な規模をもつこれらの建物と紺碧の水面，そしてそれらの周囲の彫像は，博覧会に神秘的な性質を付与していた。しかし，博覧会にはまた愉しい娯楽があった。博覧会場から西に延びる細長いミッドウェイである。アメリカで最初の大観覧車があり，一方，訪問者達はそこで踊り子やストリッパーの感興そそるダンスに見入った。ミッドウェイの派手な異国情緒は，6カ月間の博覧会の開催中に2,000万人以上もの人々を引き寄せる推進力であった。

シカゴ博覧会についての後の分析の多くは，バーナムのホワイト・シティーから都市美運動への一連の発展を示唆している。事実，後の多くのシビック・センター計画は，博覧会の「名誉の中庭」に似ており，四角に刈り取られた芝生や舗装されたエスプラネードが博覧会の「グレート・ベイスン」にとって代わっている。しかし，博覧会自体がまた都市美化の結果，すなわち到達点としての側面を兼ね備えていたのである。『博覧会は都市衛生の美に関する20年以上もの活動の総決算であった』[5]という，トーマス・アダムス(Thomas Adams)の洞察は注目に値する。博覧会は合衆国の既存の芸術，建築，工学技術の融合である，とアダムスは理解していたのである。例えば，衛生工学に関しては，博覧会は驚嘆に値した。行き届いた舗装や夜間清掃，多くの水洗便所，清潔な飲料水，そして下水施設は，19世紀の衛生工学の極致を表していた。都市美に諸局面で密接に関連している婦人の活動もまた，シカゴ博覧会で表現されていた。村落改善運動や市政改革，及び国民の文化的生活における婦人の役割の高まりは，博覧会の婦人部門や「婦人館」の建設に反映されていた。

“総決算”としての博覧会というアダムスの言及は，博覧会の遺産と考えられる美的モティーフにも適用できる。すなわち，建築デザインや建築物のグルーピング，そして建築家，彫刻家，壁画家

といった芸術家の間での協同である。博覧会の新古典主義は，シカゴでは目新しかったが，西洋や他のアメリカ都市，特に東海岸の諸都市では目新しいものではなかった。19世紀初期に，アメリカの新古典主義は，バナキュラー様式や他の建築様式に，そして世紀の終わり頃になると，ロマネスク様式にとって代わった。特に，東海岸の諸都市では，多くの新古典主義建築が，建築あるいは残存していた。新古典主義様式が最初に復興したのは東海岸であった。新国会図書館のデザインはイタリア・ルネッサンス様式であった。チャールズ・マッキム(Charles F.MaCkim)のボストン市立図書館やマッキムのパートナーのスタンフォード・ホワイト(StanfordWhite)によるワシントン凱旋門等は，明るい色彩やアーチの使用，水平線の強調，エレメントの繰り返しによるリズム感の表現等において，新古典主義の精神を表現していた。したがって，シカゴ博覧会における新古典主義様式の採用は，バーナムが東海岸の建築家を多く採用したことに起因しているといえよう。しかし，その採用は必ずしも全員一致によるものではなかった。新古典主義の採用に最も批判的であったのは，シカゴの建築家ルイス・サリバン(Louis Sullivan)であった。サリバンの「交通輸送館」は「名誉の中庭」から離れた場所に位置し，その壁面は多彩色装飾が施されており，大きなアーチ状のゴールデン・ゲートはアラベスクとバスレリーフによって複雑な装飾が施されていた。「交通輸送館」はサリバンの最良の作品ではなかったが，1889年のパリ博覧会での建築技術のめざましい進歩の続きを期待してシカゴを訪れた人々の目に叶った建築は，唯一これだけであった。サリバンは数年後，アメリカ建築に対する博覧会の影響について次のような手厳しい声明を発表している。『万国博覧会のウィルスは潜伏期間の後，最終的にはかなりの影響力を持って，建築専門家や一般の人々の間にその感染の性質の明かな兆候を見せ始めるであろう。新古典主義やルネッサンス様式が東部で激増し，それはゆっくりと西部に広がり，それに触れるもの全てを感染せしめる。……（中略） 万国博覧会によってもたらされたダメージは，たとえ少なくとも，博覧会より50年は存続するであろう。それは我々アメリカ人の心に痴呆症という精神的障害を及ぼしながら，我々の心に深く染み込んだ。』[6]。サリバンの見解は少数派であった。しかし，新古典主義様式が後のアメリカ公共建築を表現する様式となったという点において，彼の予言は驚嘆に値するほど正確であったと言えよう。

それでは，博覧会における新古典主義はどのような意義を持っていたのか。その答えは，ひとことで言えば，1890年代初めから中頃にかけての経済不況と関連がある。シカゴ博覧会が，当初の予定よりも1年遅れて，コロンブスのアメリカ大陸上陸から401年目の1893年に開催された原因もここにある。博覧会の新古典主義は，経済不況に見舞われている銀行家をはじめとする，都市の中産階級に慰めと勇気を与えたのである。秩序や成功に対する視覚的確信を失った彼らは，シカゴに出現中の高層ビルではなく，博覧会の新古典主義の中に，国家の永久の安定を感じ取ったのである。

シカゴ博覧会は，彫刻家と壁画家と建築家による協同作業であった。このような協同作業は，パリのエコール・ド・ボザールにおいて既に折り紙付きであった。博覧会の協同作業は，このボザールで建築を学んだアメリカ人の影響によるものと思われる。最初のアメリカ人学生はリチャード・ハント(Richard Morris Hunt)である。彼は1846年に入学している。その後，ボザールへのアメリカ人入学生は1860年代の10人から1880年代には79人へと急増している。ボザールを通してのアメリカ人の装飾芸術に対する関心が，建築家と芸術家の協同を生み出したのである。例えば，元ボザールの学生であった建築家のヘンリー・リチャードソン(Henry Hobson Richardson)による，ブラッ

トル・スクエア教会(1870年)や荘厳なトリニティー教会(1877年奉献)等である。博覧会以前に既に，建築家と芸術家の協同が存在していた。

後期の都市美運動にとって基本的なテーマであるシビック・スピリッツ(公民精神)もまた，シカゴ博覧会に先立つルーツを有している。それは博覧会以前にすでにシカゴで実践されており，シカゴでの博覧会の開催は，シカゴの実業家達の精力的な活動によるものであった。確かに，シカゴの実業家達は，博覧会の誘致にあたって私心を持っていた。博覧会の開催は株主に利益を与え，商業を活発にするためである。しかし，一方で彼らは，シカゴの急速な発展，シカゴの1871年の大火からの復興，シカゴの公園とブルバードのシステムを大いに誇りにしていた。それゆえ，博覧会は都市の中産階級のシビック・スピリッツ(公民精神)の表現でもあったのである。

かくして，ホワイト・シティーは，都市美運動に関連する19世紀の広範な進歩の焦点であったと言えよう。例えば，衛生，美学，都市機能の合理化，婦人の文化活動への参加，都市改善，建築デザイン，芸術家の協同，建築家の専門家気質，シビック・スピリッツ等である。しかし現在，シカゴ博覧会がこれらの多くの刺激の源泉であるという見解は正当さを欠く，と言ってよいであろう。さきに紹介したトーマス・アダムスは，1899年に次のように著述している。『シカゴ博覧会が博覧会以後の美的改善を生み出したというのは単純に誤りである。博覧会はそれを強め，速め，そして推進する一因となったのである。』[7)]

年代的に考察すると，都市美運動(City Beautiful Movement)という言葉が広範に用いられるようになったのは，1899年以降である。新古典主義建築，幾何学性，公共建築のグルーピング，軸性等のシカゴ博覧会の影響が一般に用いられるようになったのも1902年以降のことである。都市美運動がシカゴ博覧会に端を発するものでないとすれば，ここで問題となるのは博覧会と都市美運動の関連性とそのタイムラグの原因である。博覧会と都市美運動の関連性に関して言えば，その答えは，博覧会といった活力に満ちたイベントを都市計画の実務に取り入れることの可能性を都市のエリート層が認識したことにあった。事実，チャールズ・ゼブリン(Charles Zueblin)は1902年に，博覧会を都市改善運動に結び付けることの有益性を示唆している。都市美運動に対する博覧会の影響のタイムラグの原因についてはいくつかの説明が可能である。まず第一に，さきにも述べたように，1890年代初期から中期にかけての大経済不況は都市の美的改善を必然的に抑制したということである。したがって，都市の美的改善が追求され始めるのは経済不況が改善された世紀の変わり目以降のことになるのである。第二に，経済不況は確かに計画活動を抑制したが，その一方で非専門家達の都市デザインに対する関心が高まりつつあった。しかし，彼らは1893年のシカゴ博覧会を範とせずに，彼らの関心の大部分はヨーロッパの都市に注がれていたという事実である。第三に，シカゴ博覧会の直接的な影響が現れたのは，ワシントン・プラン(1901－1902)が作成されたすぐ後であったという事実である。

それゆえ，都市デザインの復興は，経済復興の兆しであり，都市改善への関心の高まりであったと言えよう。1897年に設立されたアメリカ公園・屋外芸術協会(APOAA)のメンバーは，村落改善運動を組織的に強化する必要性を当初から認識していた。3年後，村落改善は都市改善へと発展し，全国改善組合連盟の創設によって全国各地へ波及した。

シカゴ博覧会との関連が生じたのはまさにこの時点であった。問題は何故，改善グループや専門家組織が博覧会に立ち戻ったかである。その答えは多様であるが，ひとつの共通点が見いだせる。

それは非専門家達が，博覧会の成功は２つのグループの活動の結果であると認識していたことである。すなわち，シカゴのシビック・スピリッツを結集し，博覧会を成功に導いた都市の中産階級と博覧会のプロジェクトを実施した専門家グループである。博覧会に関与した市民グループは，都市改善を遂行するためには，大衆の意見を反映させ，公債発行その他の方法によって資金を調達する組織が必要であることを認識していた。博覧会はまさに，そのような技法が結集された数少ない壮大な総合プロジェクトの一つであった。さらにまた，博覧会は専門家によるすばらしい作品のショーケースであり，そこでは専門家達は最大限の自由を享受した。特に建築家は，博覧会の最初の遺産相続人であった。博覧会は建築家をして，都市のデザイン・コントロールという壮大な目標を実現可能ならしめたのである。このビジョンは，1900年のフィラデルフィアにおけるフランクリン・パークウェイのプロジェクトにおいて確固たるものとなった。このプロジェクトもまた，素人の都市指導者と専門家による理想的な協同の賜であった。しかし，さらにより重要な位置を占めたのは，上院公園委員会(通称，マクミラン委員会)によるワシントン・プラン(1901－1902)であった。ここにおいて，シカゴ博覧会の直接的成果が，博覧会から８年の年月を経て具現化されることになる。そしてこれ以降，都市美運動は都市の総合的なプランニングへと発展して行く。

３．都市美運動の起源と展開

本節では，都市美運動を構成した３つの運動，すなわち公共芸術(Municipal Art)運動，都市改善(Civic Art)運動，屋外芸術(Outdoor Art)運動を取り上げ，その起源と性質，さらには３つの運動がどのようにして都市美運動へと統合されたかについて論ずることにする。

① 公共芸術運動

都市美運動の第一の起源である公共芸術運動は，1890年代初めにニューヨークで始まり最初，装飾芸術や小規模な装飾に対する関心を意味していた。ここで言う装飾芸術とは，建築物の前庭やファサード，あるいは主要な公共建築の内観の装飾を目的とした，芸術作品，特に彫刻や壁画，ステンドグラス等を意味している。これらの装飾芸術は，建築家，彫刻家，壁画家の間の密接な協力を必要とし，しばしば協同芸術と称された。

公共芸術に対するインスピレーションはヨーロッパから生じた。最初は強い党派性を伴いつつ，エコール・ド・ボザール(Ecole de Beaux-Arts)によって，後には，いくつかのヨーロッパ都市から直接現れた。ボザールの学生であったボストンの建築家，ヘンリー・リチャードソンはボストンに二つのボザール風の建築を建てている。一方は，1870年のコンペで最優秀案となったブラットル・スクエア教会であり，他方は，1877年に奉献されたトリニティー教会(三位一体教会)である。リチャードソンは1870年代の初期に，このトリニティー教会によって公共芸術運動の理念の開拓者となった。その理念を受け継いだのが，建築家のスタンフォード・ホワイト(Stanford White)とチャールズ・マッキム(Charles MaCkim)，及び彫刻家のアントニオ・セントゴードンス(Antonio Saint-Gaudens)の３人であった。この影響を受けて，アメリカ建築家連盟は1886年以降，装飾作品を呼び物とした展覧会を年に一度開催するようになった。また，元ボザールの学生でリチャードソンの弟子でもあったマッキムは，自らの建築の装飾計画に有名な画家や彫刻家を招き入れている。

1893年のシカゴ博覧会は，装飾芸術に関しては，アメリカ芸術家をリードするほどのものとはな

らなかったものの，芸術作品に対する先例のない認識を与えることとなった。例えば，「名誉の中庭」のテラスや基壇をもった列柱，そして噴水は彫刻で溢れており，一方，展示館の入口にはフレスコ壁画が描かれていた。このホワイト・シティーの中心建築物の設計者であるリチャード・ハント(Richard M.Hunt)によって，1893年の博覧会前夜にニューヨーク公共芸術協会が設立されている。協会は，その目標を「ニューヨーク市の公共建築と公園に，ふさわしい彫刻と絵のような装飾を提供すること」とし，装飾芸術の公有化と芸術保護を推進した[8]。

公共芸術は，芸術作品の融合を意味していた一方で，より大きな理想を追求していた。それは個人の才能を記念碑的な建築に統合せしめることであったと言えよう。記念碑的な公共建築としては，スタンフォード・ホワイトのワシントン凱旋門や他の東海岸の建築家のデザインは，新古典主義様式の復興を予示するものであった。したがって，それ以降，協同的な芸術家の装飾作品を纏った古典主義建築が，第二次世界大戦後まで，アメリカの公共あるいは半公共建築を代表する様式となるのである。

しかし，このような芸術熱はまだ「都市美運動」とは称されていなかった。また，公共芸術協会が活発に都市計画を考慮することもなかった。事実，協会の控え目な目標でさえも1890年代中頃の厳しい経済不況によってつまずき，2,000人の会員が5年後にはたった350人に減少してしまっている。協会は，装飾芸術のコンペを年に一度開催し，その最優秀案を市に寄贈することを約束したが，協会の自己資金で実施されたのは1894年の法廷壁画のためのコンペただ一回限りであった。ニューヨーク以外の場所では，1894年にシンシナティーで同様の組織が設立されている。

不況が回復するにつれ，1897年までに，ニューヨーク公共芸術協会はあらゆる影響力を及ぼし始めた。1893年と1895年には，彫刻家と壁画家によって全国組織が創設されている。この当時，彫刻家や壁画家達は装飾芸術を実施する機会を積極的に追求していた。また，不況の間に，ニューヨークや他の都市の建築家達は大規模な都市装飾を夢見ていた。この新しい熱望を反映したのが，様々な都市の建築クラブの間で実施されたデザイン・コンテストであった。クリーブランドのシビック・センターにおける公共建築のグルーピングに対するデザイン・コンテストや，ニューヨークのターミナル駅舎のエントランス広場に対するデザイン・コンテスト等が有名な例である。これら公共芸術における大規模な試みを刺激したのは，多分にシカゴ博覧会であった。

繁栄が取り戻されると，芸術家のムードはさらに高まった。1897年以降，ニューヨークにおける公共芸術運動は，積極的な展開をはじめた。公共芸術は新たな分野を開拓し，公共芸術という言葉は，大きな計画であれ小さな計画であれ，都市の景観美を高めるための全ての計画を包含するまでに拡張された。壮大なブルバードやプラザ，記念碑，橋梁，エスプラネード等のヨーロッパの都市風景が，芸術家の多くの案に吹き込まれた。また，公共あるいは半公共建築のグルーピングは，ブルバードやパークウェイと連結されることによって，統合的な体系を表現するようになった。しかし当時，この公共芸術はアーバニティーを活性化させる以上のイデオロギーを持ち得なかったため，公共芸術は，ヨーロッパの芸術的な都市風景とアメリカ都市の醜い風景とのコントラストに目を向ける以上の域を出ることはなかった。そのような意味において，公共芸術の唱道者達が範としたのは，ホワイト・シティーよりもむしろパリやローマといったヨーロッパ都市であったのである。

都市美に対する関心が高まるにつれ，目に見える成果も大きくなる。ニューヨーク改善クラブは，1897年以降，「Municipal Affairs」という新しい季刊誌の中で都市美化に関する多くの芸術家の見

解を連載していた。また，ニューヨーク建築家連盟は都市プランに関する公共討論会を数多く催した。全国彫刻家連盟は，マディソン・スクエアに彫刻作品で飾りたてられた白亜の壮観な凱旋門を建設した。

都市美運動は，1899年までにこの新しい公共芸術に対する関心を深めていった。「都市美運動」という言葉を最初に用いたのは，ニューヨークの芸術家や評論家であった。彼らは，都市美運動の理念をイギリスの工芸運動からさらに高めたのである。1896年にロンドン工芸展示協会が，「我々の大都市の構造と装飾に対して有用性と美の観念を適用するには」と題した5つの講演会のスポンサーとなっている。「芸術と生活，都市の建築と装飾」というタイトルで発表された講演集が1897年に公表され，広く利用されるに至った。ここにおいて，都市芸術に関する議論において，以前には決して用いられなかったような新しいスローガンが確立されるのである。1898年3月，ニューヨークの建築家であるチャールズ・ラム(Charles R.Lamb)は，ニューヨーク市に対して，理想家の夢である“THE CITY BEAUTIFUL”を実現するように働きかけていた。一方，「Municipal Affairs」誌は，1899年12月号において，その言葉に多大な賞賛を表すと共に，同号の表紙に“THE CITY BEAUTIFUL”という言葉を初めて掲載した。

19世紀末までの間に，公共芸術はニューヨークを超えて他の主要都市にまで広まった。1899年，クリーブランドでの建築クラブの全国大会において，アメリカ建築家連盟が創設された。1年以内に連盟は都市改善及び都市装飾全国委員会を設立し，公共芸術を多くの都市に普及させることに尽力した。一方，シカゴでは1901年に公共芸術協会が創設されている。同年12月には，バルチモア公共芸術協会がアメリカで最初の公共芸術に関する会議を後援している。主に芸術家と芸術評論家からなる講演者は，ニューヨークをはじめボストンやシカゴ，フィラデルフィア，ワシントン，さらに遠くイタリアのローマからも出席した。その当時，公共芸術はまだプランニングを意味していなかった。しかし，都市を一種の芸術作品として見なすその運動の理念は多くの推進力を与えることになる。1898年から99年にかけて，一部の建築家達は，「大きな計画」を奨励するようになった。彼らの考えは，1901年のワシントン・プランや都市美運動の一部と考えられたその他のバロック風の計画に向けられた。その一方で，芸術家や大部分の建築家達は都市景観における「小さな側面」を主張した。シカゴの芸術家のジョージ・クライエン(George Kriehn)は，バルチモア議会での演説において，『すべての現代都市のうちで，パリ以上に都市美という名に値する都市はない』[9]という当時の一般的な見解を述べている。彼はアメリカ都市の非芸術的な状態とアメリカの多くの都市の価値を減じている醜い看板や掲示板を非難し，喫煙条例の施行，色彩のコントロール，植樹や公共広場における噴水や彫刻，荘厳な公共建築のグルーピング等を唱道した。彼は次のように宣言した。『もし我々が醜い要素を一つづつ取り去り，それを根絶するとすれば，都市美の仕事は困難ではないであろう』[10]。

② 都市改善運動

都市美運動の第二の起源である都市改善運動においては，小規模で断片的な計画が公共芸術運動以上に支配的な役割を果たした。

都市改善運動は，素人の実行可能な目標として始まり，当初，中小都市において活発に展開された。都市改善に全国的な影響を持つことになる組織は，オハイオ州コロンバスの郊外にあるスプリングフィールドという片田舎で設立された。ここは，カレッジタウンであり，出版業の中心地でも

あった。植物とペット雑誌の地方出版者であるD.トーマス(D.J.Thomas)が，1899年に村落改善組合の活動に興味を持ち始め，「Homes and Flowers」誌において，ニューイングランド州やサウスアトランタ州，カリフォルニア州等における改善組合の活動を報告した。その記事に対して読者から多くの反応が寄せられた。読者の多くは改善事業に関する情報センターを求めており，『都市美のための全国的な運動がなぜ展開されないのか』を真剣に問いかけている読者もわずかながらいた[11]。読者の反応に対する応答として，「Homes and Flowers」誌は，1900年10月10日，スプリングフィールドで改善組合の集会を開いた。集会では，改善組合全国連盟設立の共同宣言が採択され，田園であれ，村落であれ，都市であれ，住宅やその周囲の環境の美化に関心を持つ組織に対して，連盟への加入を呼びかける決議が行われた。

装飾芸術運動と同様，村落改善運動もまたシカゴ博覧会に先立つルーツを持っていた。1848年，アメリカにおけるイギリス風景式庭園の普及者であるアンドリュー・ダウニング(Andrew J.Downing)は，田園での生活を熱望している都市市民に対して田園改善組合の設立を奨励している。この田園改善組合に対する美学的理論を提供したのが，田園住宅とその美化に関するダウニングの初期の著作「Smiling Lawns and Tasteful Cottage」であった。そしてこれを実践に移すための組織として，1853年にマサチューセッツ州ストックビレッジにおいて，Laurel Hill組合が設立され，以後の組合のプロトタイプとなった。ストックビレッジは最初，丘陵にある荒廃した田舎町であった。街路は轍だらけで街路樹さえなかった。しかし1870年代までには，清潔で有名な町へと変身し，住民は整然とした砂利敷の歩道を歩き，木陰と手入れの行き届いた芝生を享受していた。1880年までに，マサチューセッツ州には28の改善組織が存在していた。一方，コネティカット州には50から60もの組合が存在していた。これら田園都市[12]における多くの改善組合は，夏の商売を獲得すること，すなわち都市の富裕な家族の避暑地となることを熱望していたのである。したがって，村落改善の理念は，ピクチャレスクな景観美を高めることや，田園や村落に清潔さ，秩序，さらには文化活動をもたらすことにあったと言えよう。

1890年代，村落改善の理念はニューイングランド以外にも広まった。その伝播の一部は「The Atlantic Monthly」誌や「Forum」誌等の全国雑誌の影響によるものである。1892年にペンシルバニア州ホーンスデイルにおいて，また1895年にニュージャージー州モントクレアーにおいて設立された改善組合は特に有名であった。これら改善組合では多くの場合，婦人達が組合を支配し，多くの組合は婦人クラブの全国連盟に属していた。1890年代の後半になって，バージニア州のポートマスとジョージア州のアトランタを結ぶシーボード・エアライン鉄道が，北部の工業を誘致するためにその路線の各駅に改善組合を設立している。改善組合の活動はまさに「改善十字軍」と呼ぶにふさわしかった。改善組合全国連盟の創設者であるジェシィー・グッド(Jessie Good)の以下の言葉は，婦人達の地区グループによる改善活動に力を与えることになった。『これら改善組合にとって，大きすぎるが故に請け負うことのできない仕事はない。組合は下水道から花壇にまで及ぶあらゆる改善を指揮し，住宅正面のフェンスから電線までを適切に指導する。水は組合の指示で流れる。また，組合はきれいな中庭や清潔な路地を好む大衆の感情に呼びかける。事実，組合は最も美しい裏庭や，最も整然とした路地に賞を与えるのである。』[13]

1901年8月，二代目会長のチャールズ・ゼブリン(Charles Zueblin)は，全国改善組合連盟をアメリカ都市改善連盟と改名し，その目標を「屋外芸術と公共美の推進，ならびに都市，村落，近隣

地区の改善」とした。ここにおいて，都市改善に村落改善以上の重点が置かれることになり，その本拠地はスプリングフィールドからシカゴに移った。

改善組合の美的目標は，小都市の美についてのイメージを秩序や清潔さ，向上したモラル等と融合することとなった。オハイオ州のデイトン新聞がそのビジョンを次のようにうまくまとめている。『手入れの行き届いた街路，美しい公園，魅力的な住宅地，豊富で新鮮な空気，そして良好な衛生状態を手に入れた都市こそが，都市のモラルの向上と産業の発展が常に約束されている都市である』[14]。1902年だけでも，この記述に沿った多くの実例が展開された。例えば，ネブラスカ婦人クラブ連盟は，都市の公衆便所，森林の保全，空地の開墾，教会の外観とその周囲の環境の改善，共同墓地の建設等に対する精力的な運動を行っている。一方，バッファロー美化組合は，当時の多くの近隣地区の景観を損ねていた派手な看板や掲示板の撤廃運動を展開した。都市の70人の指導的婦人で構成され，アイダホ州で２番目に大きかったアイダホ州フォールズ村落改善組合は，均一サイズで白く塗装され，装飾文字が刻まれた50個のゴミ箱を都市内に設置し，住宅地の街路の植樹を推進し，かなりの成功を収めている。ケンタッキー州のルイスビューにおける婦人クラブは，道路にたんを吐くことを禁じた条例や禁煙条例を施行し，さらに植樹，街路の電線，空地や看板，子供の遊び場等の問題を取り上げている。

20世紀初頭には，都市改善はシカゴやセントポール，ミルウオーキー等の大都市圏に広まった。特にセントルイス都市連盟はこの上ない賞賛を浴びた。1902年の初めに設立されたその連盟は，1904年のルイジアナ博覧会を目指して，都市の改善に主眼を置いていた。わずか10カ月間に約2,000人の会員を獲得し，貧困な近隣地区に３つの公衆浴場を建設した。さらに，掲示板や衛生条例を取締り，主要都市間を連結するブルバードを計画し，植樹や子供の遊び場の建設を奨励し，清潔な水の供給に成功している。都市改善連盟のルイス・マクコール女史(Louis Marrion McCall)が言っているように，セントルイスは国家の首都以外ではどこにおいても見いだすことができないような巨大で，壮大な都市美計画を持つ都市であったのである[15]。事実，セントルイスとワシントンは，当時の都市美運動の好例であり，セントルイスのそれは1902年のワシントンの総合計画を予示するものであったと言えよう。

③　屋外芸術運動と都市美運動の完成

1900年から1901年の間に，注目すべき多くのグループが様々な美的改善を推奨している。さきに言及したグループ以外にも，特に重要なグループがある。1897年に設立されたアメリカ公園・屋外芸術協会(APOAA)である。この協会は，都市美運動の第三の起源である屋外芸術あるいは大規模な都市公園における景観美を唱道した。

屋外芸術は南北戦争以前のロマン主義精神に根ざし，1850年代以降，フレデリック・オルムステッド等の景観建築家によって物的表現が与えられた。この点に関して，メル・スコットは，『都市美運動は，公園・並木道運動の連続，ないし拡大にすぎなかった』[16]と著している。1890年代後半までに，景観建築家達は，一般の居住地やコテージから住宅団地に至る広い範囲の住宅の庭や公共建築の美的改善を含めた都市美化にまで彼らの関心を広げた。屋外芸術という言葉は，これらの関心の広がりを表現した言葉である。屋外芸術の支持者達はその後さらに，屋外芸術の範囲を「校庭の美化，掲示板や不潔な看板の撤廃，田園風景の保全」にまで広げており，1890年代には大衆の共感を得るに至った。

1897年のアメリカ公園・屋外芸術協会は，この大衆の支持を教育，強化する組織であった。1900年までに237人に及んでいたそのメンバーは，主に景観建築家，公園管理者や公園コミッショナー，及び一般の知識人によって構成されていた。彼らは大規模な公園システムを有する都市で，年一度，大集会を開催している。公園システムへの関心を高めると同時に，公園開発の原則を実例をもって説明するためである。屋外芸術を向上させるために，協会のメンバーは，工場敷地や学校，鉄道駅敷地，及び街路の美化を推進し，不潔な掲示板を撤廃し，州立・国立公園や森林の保全を唱道したのであった。彼らもまた，他のグループと同様に，断片的で現実的なプロジェクトに重点を置いていた。

*　　*　　*

1900年から1901年にかけて，都市美運動はその構想を完成させることになる。公共芸術協会と都市改善及び屋外芸術の各支持組織が互いに影響を及ぼし合うのである。例えば，景観推進家が公共芸術に関する演説を行い，都市改善家が屋外芸術を公式の目標として主張し，公共芸術協会が公園開発と広告規制を支持した。1904年には，アメリカ公園・屋外芸術協会とアメリカ都市改善連盟が合併され，アメリカ都市協会が誕生している。都市美活動に関する主要な全国組織もまた，共通の戦略を展開した。このようなプロセスの中で，都市美運動のメタファーは，単に公共芸術に対する関心から，植樹や建築装飾にまで適用できる全ての人々のスローガンとなり，その最大の唱導者として，チャールズ・マルフォード・ロビンソン(Charles Mulford Robinson)を獲得するのである。

ロビンソンは，1869年の4月30日，ニューヨーク州のロチェスターで生まれた。1891年にロチェスター大学の文学部を卒業したロビンソンは，1893年の博覧会当時，ロチェスター市にある「Post-Express」紙の編集者を勤めていた。1899年に「Atlantic Monthly」誌に掲載された「都市生活の改善」という一連の記事は，読者からの高い反響を集めた。この連載記事を契機として，ロビンソンは都市芸術記者としての役割を演じることになる。その後，ロビンソンは，「都市と町の改善ー都市美の実践的基盤」と題する著作を出版した。この著作の中でロビンソンが擁護した都市美運動は，まだプランニングを意味していなかった。ロビンソンはこの著述において，アメリカやヨーロッパの諸都市の成功例を編集すると共に，個々の都市改善計画に重点を置いていた。1901年の5月に出版されたこの著作は，出版と同時に完売し，1916年までに11版を重ねた。出版後1年半を経たずして，ロビンソンはアメリカ都市改善連盟の記録書記官に抜擢され，やがて都市計画の顧問として，セントルイス博覧会の計画や多くの都市計画レポートの作成に携わることになる。

1901年直後，都市美運動は次第に都市計画へと移行する。1901年のマクミラン委員会のワシントン・プランやペンシルバニア州ハリスバーグのプランは，国民に総合的な都市プランの実行可能な例を提供した最初のものである。1902年にロビンソンは，『小さな都市でさえも，都市改善の全体計画に助言するための専門家を雇わねばならない』[17]と述べている。ロビンソンは，この新しい見解を第二の主作「現代都市芸術—美しくつくられた都市」の中で強調している。この著作はある都市の改善担当官によって，「都市美運動信奉者のバイブル」と称された。

都市美運動のプランニングへの移行は，ゆっくりと現れ，直ちには成功しなかった。1904年当時，都市の総合プランを作成していた都市は，ワシントン，ニューヨーク，サンフランシスコの3都市だけであった。その後1905年から1908年までに，少なくとも12の都市で都市プランが作成されている。ニューヨークやサンフランシスコ，セントルイスのような大都市だけでなく，多くの小都市で

も都市プランに関する報告書が作成された。例えば，オハイオ州のコロンバス，サウス・カロライナ州のグリーンビューやコロンビア，コロラド州のデンバー，カリフォルニア州のサンディエゴやオークランド，さらには遠く離れたホノルルやマニラ，バギオ等においてである。この時期以降，「都市美運動＝都市計画」という等式が成立するに至るのである。

4．都市美運動のイデオロギー

都市美運動の推進者達は，その運動に対して複雑で革新的なイデオロギーをもたらした。

まず第一に，都市美運動における都市問題の解決は，既存の社会的，政治的，経済的枠組みにおいて行われた。都市美運動の提唱者は都市の弊害を認識していたが，彼らはより良い都市環境へのスムーズな移行を仮定していた。それゆえ，彼らは楽観的に，都市を是認していたのである。

都市美運動の提唱者は，農業村落や田園生活運動，イリノイ州プルマンのようなユートピア的な工業村落，あるいはエベネザー・ハワード(Ebenezer Howard)の田園都市の概念にはほとんど関心を持っていなかった。彼らにとって，都市は活動の舞台であり，それゆえ都市に関心が集中したのである。

第二に，都市美の改革者達は既存のアメリカ都市の美的欠点を認識していた。したがって，彼らは最初，美を装飾ないしは表面装飾以上のものと信じ，美しい建築や風景を積極的に追求した。美しい建築や風景がアメリカ都市に充満している醜く乱れた環境にとって代わることを願ったのである。都市美運動の唱道者であるホレイス・マクファーランド(Horace McFarland)は，この努力を「都市醜撲滅十字軍」と呼んでいる。事実，19世紀から20世紀にかけてのアメリカ都市は醜く汚かった。工業地区は黒いススまじりの煙を吐き出し，ピッツバーグやシカゴ，セントルイス等の空を覆っていた。都市内部を流れる河川は，水辺景観としてではなく，下水道として扱われ，くずやがらくたが川岸に散乱していた。公園の数も少なく，道路舗装もまた不充分であった。

都市美運動の提唱者達は，美が改善に役立つと考えていた。自然風景を取り戻すためのフレデリック・オルムステッドの環境保全主義は，都市改善の中に採り入れられた。アメリカ公園・屋外芸術協会のE.L.シューイ(E.L.Shuey)は，『美と健康は，切り離せないくらい重要である』[19]と認識していた。また，マクファーランドも次のように言明している。『エデンの園では，美は食物よりも先に現れた。そして我々は，……人々をエデンの園に帰せしめることはできないが，都市をエデンの園たらしめることは可能である。』[19]と。都市美運動の代弁者であるロビンソンは，都市における景観公園の確保を主張し，『景観公園とは……都市の人工性に対して最も鋭いコントラストを与えるものである』[20]と述べている。美について定義すると，手入れの行き届いた住宅の前庭や花壇，コントロールされた看板，うまく計画された景観公園，整然とした街路，すっきりとした街路装飾，荘厳で記念碑的な公共建築等が都市美の基礎であった。『美は深遠なるものである』[21]というジェシー・グッド(Jessie Good)の主張は，都市改善グループの美の観念を代弁している。

第三に，都市美運動の指導者は美と効用性を結合させた。景観建築家は都市労働者を満足させ，上流階級を都市に引きつけ，そして土地価値を高めるための美の役割を重視した。そのような見解は，『美は他のいかなる日用品にもまして多くの利益を与えてきた。そして今後も常にそうあり続けるであろう』[22]というバーナムの言葉に要約されている。19世紀末までには，美と効用性はますます分離できないものとなった。いかなる建築や景観も，機能的でなくしては真に美しくありえな

かった。都市美運動の建築家や計画家達は，美しく魅力的であり，かつ機能的なデザインを追求した。1909年のバーナムのシカゴ・プランは，交通のサーキュレーション，鉄道網の再編成，シビック・センターや文化センター，レクリェーション開発，その他の機能的問題を取り扱っていた。1901年のハリスバーグ・プランもまた，公園及びブルバードに関するレポートと街路及び下水道改善に関するレポートを統合したものであった。古典主義者のアーノルド・ブランナー(Arnold Brunner)は，美と効用性の込み入った性質を表現するために，「Beautility」という新語を造り出した。彼は都市美運動が有していた機能的・美的関心を要約したのである。

第四に，都市美運動の提唱者達は，都市問題を解決するために専門家を雇った。建築，都市計画，工学といった新しい専門分野における専門家の出現もこの時期に始まる。アメリカ公園・屋外芸術協会の地区改善員会は1903年に，改善運動を成功させるための必須条件として専門家を雇うことを挙げている。事実，専門家の存在は計画への批判者や疑問を抱いている人々に大きな効果を与えた。また，都市美運動の公債発行運動においては，専門家の作成した計画が実用性に富むことを常に主張していた。ロビンソンは，著作「現代都市芸術」において，専門家に対し断片的な計画を総合計画に適合させることを求めている。また，『小さな計画は作るな』[23]というバーナムの格言は，後期の都市美専門家を代弁する言葉であった。

第五に，都市美運動のイデオロギーはマルクス主義的とは言えないものの，それなりの階級意識を反映していた。すなわち，都市美運動はアメリカ都市における階級性の存在を認めていたのである。都市の中・上流階級は郊外の美を享受し，都市改善を通して土地価値の増加や生活の安定等の利益を得た。一方，下層階級は郊外へ行く余暇や余裕を持たず，劣悪な都市環境から逃れることはできなかった。オルムステッドの景観公園は，都市の過酷な環境に代わる代替物を持ち得ないこのような「疲れた労働者」のためのものであった。階級意識の高まりは労働者階級のためのレクリェーション施設の重要性を必然的に導いた。しかし，都市美のイデオロギーが労働者階級の革命の恐れを背景に導かれていたわけではない。ロビンソンは，『都市のスラムは一気に革命にほとばしる火が常にくすぶっている場所である』[24]と警告してはいる。しかし当時，都市のスラム問題について言及しているのはロビンソンただひとりであり，そのロビンソンとて，「現代都市芸術」の中ではその点について一言も触れていない。したがって，都市美運動が革命に対する危機意識を持つことなく進展したのは至極当然のことであった。

第六に，都市美運動の極度の楽観主義もまた階級闘争の恐れを覆い隠していた。その福音主義的な確信は，都市の中・上流階級の社会的，文化的，倫理的信念から湧き出たものである。『暗黒が立ち去り，影に覆われていた建築がはっきりと前方に聳え立っている。……太陽が昇るにつれ，その高いファサードは光輝く。窓がトパーズのごとく輝くのだ。薄暗く，粗末で，醜かった全てのものは，変形あるいは陰に覆い隠される。新しい時代の仕事にふさわしい新しい都市が存在するかのごとく思われる。』[25]という，ロビンソンの「現代都市芸術」の熱狂的な序文は，まさにこの都市美運動の精神を表現している。

第七に，都市美運動は「アメリカ人によるヨーロッパの発見」であった。ヨーロッパの都市は古典的なモデルであった。ヨーロッパ都市はいかなるアメリカ都市よりも活動的であったにもかかわらず，都市の成長や開発が上手くコントロールされ，まさに美そのものであった。都市美運動の黄昏期に，フレデリック・ホーウェ(Frederick C.Howe)は，アメリカ都市における自由奔放な個人

主義を悔やみ，代わってドイツ都市の土地公有や土地取得による不労所得税，そしてゾーニング条例を賛美している。ホーウェの賛歌はヨーロッパ的な都市化に夢中であったアメリカ人の一例を示唆している。

最後に，都市美運動のイデオロギーは，運動の受け入れ易さ，すなわち人々の関心の強さにその特徴があったと言えよう。人工的で醜い都市を批判し，都市を美しくしようとする運動は素直に受け入れられた。そして都市が美と機能を達成すると，都市はもはや景観上の「化膿した傷」ではなくなった。1903年に，マクファーランドは都市美運動を『都市への偉大な覚醒』[26]と称した。都市美運動は，中流及び上流階級の指揮の下での偉大な将来のビジョンを共有した都市進歩主義の，都市計画的側面であった。

5．都市美運動の美学

都市美運動の美学もまた，そのイデオロギーと同じくらい広範である。

まず，都市美運動の美学のひとつとして，都市の人工性に対抗する自然美や自然構成主義が挙げられる。1959年にヘンリー・リード(Henry H.Reed)が述べているように，『自然風景の保全と都市美運動が合衆国において同時に現れたのは全く偶然ではなかった』[27]のである。南北戦争以前に，アンドリュー・ダウニングは富裕な都市居住者に対して田園生活や田園風住宅を奨励している。一方，オルムステッドは，都市の中産階級に対し，田舎での厳しい生活や人間性を阻害する都市環境に対する解決策として都市郊外を奨励している。

20世紀になって都市化，機械化，商業化が進行するにつれ，自然風景を都市に持ち込むことが不可欠となる。ボストン大都市圏地域の公園システムやジョージ・ケスラー(George Kessler)のダラス・プラン，その他の多くの都市プランの主要モティーフは自然美の保全と強調にあった。都市美運動を構成した公共芸術，都市改善，屋外芸術は，花や樹木が都市環境の質を高め，都市の人工性を和らげるという理由で，それらを奨励した。都市改善や屋外芸術の提唱者達も，鉄道駅舎構内や工場用地の美化のために芝生や花，植樹を奨励した。このような活動は，駅や工場のゲートを越えてしばしば住宅地にまで広がり，市民の関心を高めたのである。

都市美計画家は彼らの都市改善計画の中に自然美や自然構成主義を採り入れた。バーナムの都市プランは，ブルバードによってシビック・センターや景観公園，水辺景観と結んでおり，また，公園とパークウェイから成る公園システムを提案していた。都市美計画家達は景観公園やパークウェイを都市の貴重な財産と見なしていたのである。それゆえ，都市美運動が古典主義を偏愛し，自然主義を軽視したという非難は単に誤りであると言えよう。

とはいえ，都市美計画家達は自然主義に対する彼らの関心を認めつつも，古典主義的な美学を重要な要素と考えていた。19世紀初期の新古典主義は，19世紀の終わりにはロマネスク様式にとって代わった。クリストファー・ターナード(Christopher Turnard)によると，『古典主義建築は融通性に富んだ建築スタイルであり，プランの大胆さとディテールの洗練さの統合によって，建築に調和を創り出すことができる』[28]様式であった。成長中の民主主義がこの建築スタイルの荘厳さや記念碑性を必要とした。州議事堂や市庁舎，鉄道駅舎，図書館等であった。ターナードによれば，『古典主義様式で取り扱うべき建築は，裁判所，市庁舎，博物館，美術館，劇場，銀行，郵便局，そして新聞社社屋』[29]であった。

新古典主義的アプローチは，才ある建築家をしてその原理の範囲内における配置やディテールの実験を可能ならしめた一方で，その原理は多くの凡才なる建築家を保護することとなった。建築家が新古典主義の原理に従っている限り，劣悪な新古典主義建築が生まれるすべはなかった。さらに，新古典主義建築はロマネスク様式や近代主義が持ち得ない重要な象徴性を持ち合わせていた。ジェイムス・アーリー(James Early)やジョージ・ハミルトン(George H.Hamilton)等が著述しているように，『新古典主義建築は，ギリシャやローマ，さらに拡大すればルネッサンスの都市国家へのロマン主義的な愛着の表現』[30]であった。したがって，過去の様々な共和国の建築様式，すなわち新古典主義様式を採用することによって，合衆国の偉大さを強調することは理にかなっていた。

大部分の批評家たちはこの自然構成主義と新古典主義を奇妙な並置として扱ってきた。この事実に対する説明は二重である。まず第一に，自然構成主義と新古典主義の並置が都市美運動に関連する一連の発展を示しているということである。つまりこれは，自然主義と新古典主義の双方が共に都市美運動に先立つルーツを持っていたということの証明になる。第二は，自然主義の起源は明らかにイギリスにあったのに対し，新古典主義の起源はフランスやイタリアにあったということである。折衷主義的なアメリカ人がこの二つの様式を混合したのである。しかしながら，自然主義と古典主義の結合は都市美運動が最初ではなく，既に18世紀や19世紀において用いられていた。1889年のパリ博覧会は，軸性や幾何学性を自然構成主義と結び付けており，1893年のシカゴ博覧会もまた同様であった。後に，新古典主義建築の魅力と自然構成主義において表現されたロマン主義への熱望が都市美デザインにおいて統合されることになるのである。

シカゴ博覧会の「名誉の中庭」の先例のない成功は，都市生活の焦点としての公共広場や都市センターに対する関心を覚醒させることとなった。このシビック・センターにおける公共あるいは半公共建築のグルーピングが都市美運動の第三の重要な美を構成している。1901年に，ロビンソンは，著作「都市と町の改善」の中で公共建築のグルーピングを主張している。一方，「現代都市芸術」によると，シビック・センターは都市の既存の商業核にとって代わるものではなく，それを補足するものであった。一般に，都市の商業センターに近い土地は地価が高いため，公園用地として利用することは不可能に近かった。したがって，商業中心地の近くに「中景」を取り込む方法は，シビック・センターに公共建築を関連させる以外にはなかった。

20世紀になると，個々の美しい建物によって都市を高い美的水準に導くことに対する願望は薄れた。単体の建築はそれがいかに荘厳であれ，都市のアンサンブルとしての効果や統一を表現していなかったからである。容積，高さ，色彩，ファサードの処理，及び統一，比例，調和，シンメトリーといった美の重要な要素は，シビック・センターにおけるグルーピング以外には不可能であった。また，シビック・センターは実用的な効果も有していた。類似した機能を持つ建築の集中は利用者にとって便利であるばかりか，関連した都市活動を生み出した。したがって，シビック・センターの原理は，機能性，効用性，及び美を兼ね備えていると同時に，都市行政の象徴として機能したのである。

註

1) Charles Moore : Daniel H. Burnham, Architecture, Planner of Cities, 1921

2) 例えば，渡辺俊一「アメリカ都市計画とコミュニティー理念」(技報堂出版，1977)，p.36

3) 参考文献－3，pp.501-502
4) Norman T. Newton : Design on the Land, p.362, Harvard Uviv, 1971
5) 参考文献－1
6) 参考文献－3，p.501
7) 参考文献－1，p.60
8) 参考文献－2，p.417
9) 同　上　，p.420
10) 同　上　，p.420
11) 同　上　，p.420
12) ここで言う「田園都市」は，エベネザー・ハワードが提唱した「田園都市」ではなく，単に田園地域に立地する中小都市を意味している。
13) 参考文献－2，p.423
14) 同　上　，p.424
15) 同　上　，p.424
16) 参考文献－4，p.45
17) 参考文献－2，p.428
18) 参考文献－5，p.172
19) 同　上　，p.172
20) 同　上　，p.172
21) 同　上　，p.172
22) 同　上　，p.172
23) 註1)
24) 参考文献－5，p.174
25) Charles Mulford Robinson : MODERN CIVIC ART, The City Made Beautiful, p.5, New York, 1970
26) 参考文献－5，p.176
27) 同　上　，p.177
28) 同　上　，p.178
29) 同　上　，p.176
30) 同　上　，p.180

参考文献

1－ William H.Wilson : The City Beautiful Movement, The Johns Hopkins Univ, 1989
2－ John A. Peterson : THE CITY BEAUTIFUL MOVEMENT, Forgotten Origins and Lost Meanings, New York Univ, 1976
3－ John W. Reps : THE MAKING OF URBAN AMERICA, A History of City Planning in the Unite States, Princeton Univ, 1965
4－ Mel Scott : American City Planning Since 1890, California Univ, 1969
5－ William H. Wilson : THE RISING OF MODERN URBAN AMERICA, The ideorogy, aesthetics, and politics of the City Beautiful Movement, Mansell, London, 1980